

■藤原兼家 公卿。兄兼通と壮絶な権力争いを勝ち抜き、朝廷における摂政関白の地位を確立させた。
ふじわらのかねいえ
・・・・・・・ 929＝ 武蔵守藤原経邦の女盛子を母に、 右大臣藤原師輔の三男に生まれる。兄は兼通。

承平天慶乱始 935＝ 6歳：

空也念仏始・ 938＝ 9歳：

承平天慶乱終 941＝12歳：

・・・・・・・ 947＝18歳：

・・・・・・・ 956＝27歳：

・・・・・・・ 958＝29歳： 安子が立后すると、兄兼通は中宮亮となり、

宋建国・・・・ 960＝31歳：正五位下。さらに、兄兼通は中宮権大夫となって、中宮安子との深いつながりが始まる。

・・・・・・・ 962＝33歳：従四位下、 兵部大輔となるも不満を抱えるなか、

・・・・・・・ 964＝35歳： 安子が死去すると、村上天皇の意向が兼家へ傾き、
・・・・・・・ 965＝36歳：

延喜式施行・ 967＝38歳： *村上天皇が死去すると、兄兼通に代わって蔵人頭となり、冷泉天皇が即位するや、父師輔と対立していた実頼が関白になるものの、兄兼通とは違って親しかったこともあって、

・・・・・・・ 968＝39歳： 娘超子が入内するとともに、兄兼通を越えて従三位に昇り、
安和の変・・・・ 969＝40歳： 蔵人頭を兼ねたまま参議を経ずに中納言に進む。安和の変を主導した師尹の横暴が強まり、その家人と自らの家人が乱闘、死者を出すなどの事件も起したりするものの、
・・・・・・・ 972＝43歳： *長兄の摂政伊尹が没したときは、すでに大納言兼右大将まで進み、次兄権中納言兼通との間に大差をつけており、世人は兼家を伊尹の後継者とみなしていたが、兼通が妹の故中宮安子(村上皇后、冷泉・円融母)の遺命を円融天皇に申し立て逆転に成功して、この年内大臣に昇るが、

尾張国守罷免 974＝45歳： 関白となった兼通によって昇進を阻止される。
・・・・・・・ 976＝47歳： この年、 超子が冷泉上皇の子を産んで将来への布石が敷かれるが、
・・・・・・・ 977＝48歳： 兼通臨終に際して、関白就任を図るも阻まれ、従兄の頼忠が関白となる。
・・・・・・・ 978＝49歳： 勅勘が赦され、右大臣となる。娘詮子の入内に成功し、超子の子は親王となる。
・・・・・・・ 979＝50歳： 兼通の娘中宮?子が子を産まないまま死去して、外戚兼家の力が強まるも、
・・・・・・・ 980＝51歳： 最愛の妻時姫が死去。
・・・・・・・ 982＝53歳： 超子が死去。
・・・・・・・ 983＝54歳：

永観荘園整理 984＝55歳： 円融天皇を退位に追い込み、娘詮子(東三条院)の生んだ皇子(のちの一条天皇)が花山天皇の皇太子となるに及んで、ようやく前途が開け、

花山天皇出家 986＝57歳： *花山天皇の退位出家を演出し、外孫の皇太子を皇位につけて、待望久しい摂政の座に就くことに成功。さらに、彼は摂政就任後まもなく右大臣を辞したので、朝廷は准三宮の宣旨をたまい、太政大臣以下三公の上に列すべきことを宣下した。いわゆる“一座の宣旨”で、摂政関白の朝廷における独自至上の地位が確立し、以後、摂関は兼家の子孫に限られることになる。

尾張国守罷免 989＝60歳： 天皇元服の加冠奉仕のため太政大臣に任ぜられ、
藤原定子入内 990＝61歳： *元服後、摂政・太政大臣を辞して関白に補されたが、まもなく病により辞官出家して如実と称し、東三条邸において没した。